平成２９年１０月１４日
溺水防止救助救命本部
パトロール能力向上委員会

第２回ＪＬＡシミュレーション審査会　実施細部

審査会実施概要

1. 実施日・実施場所
   平成２９年１１月１１日（土）　福岡県糟屋郡新宮町下府　新宮海水浴場
   平成２９年１２月　２日（土）　和歌山県和歌山市　片男波海水浴場
   平成２９年１２月　３日（日）　神奈川県葉山町　大浜海岸

想定実施細部

1. 想定の概略
   係員統括（以下統括）の『想定はじめ』の合図で計測開始とします。
   ６名態勢で通常の監視業務中に有事が起きてしまった。
   他にも遊泳客は存在し、海のコンディションは当日の状況とします。
   遊泳禁止等の判断は海浜組合・役場の３者と協議し決定しているため容易に変更できない状況です。
   実施者により仮想 119 通報があり、救急隊要請された場合、後に救急隊が到着します。
   統括の『想定終了』の合図によって審査終了とします。
   想定に別途変更などあった場合、当日事前説明時に変更点や付加事項など、告知できる範囲で実施チームにお知らせします。

2. 実施時間　９分間

3. 実施人数　６名　内訳(監視長１名　監視員５名)

4. 使用資器材
   レスキューボード、レスキューチューブ×2、毛布、ＡＥＤ（訓練用ＡＥＤ、訓練用パット×２)、傷病者記録票（バインダー含む)、拡声器、バックボード、ディスポグローブ×100、詰所テント、双眼鏡、パイプ椅子×3、、トランシーバー×4 基（仮想消防含む)、はさみ、滅菌精製水の入ったボトル、お湯の入ったボトル、氷の入ったボトル
   ※ＪＬＡが用意する使用資器材に不足を感じた実施チームは、普段パトロールに使用している資器材を持ち込み可能とします。タイムテーブルに支障をきたさない範囲（浜に侵入後３分以内）で準備してください。

5. 審査項目【審査表は当日審査員に配付】
   ①　継続監視要領
   ②　的確な観察要領
   ③　監視委員連携要領
   ④　救急隊への引き継ぎ要領
   ⑤　観衆への対応要領
   ⑥　監視長の指揮要領
   ⑦　資器材の適正な取扱い要領
   ⑧　周囲状況を考慮した対応要領
   ⑨　接遇要領
   ⑩　関係者の対応要領
   ⑪　観察・救護要領

想定 1

時間	項目	備考
０分	監視員（以下ＬＳ）詰所テントに実施チームは配置 固定監視　監視長の「準備よし」の呼称があったら 統括の『想定はじめ』の合図で計測開始	
開始同時	実施チーム詰所テントにクラゲ被害にあった浴客が来る	
開始〇秒後	サーフボードに傷病者をうつ伏せに乗せたサーファーが波打ち際で助けを呼ぶ	
付加事項	死戦期呼吸（ＬＳ接触後　〇分間、補助呼吸実施していたら　〇分以降は呼吸なし） 上記直後に訓練用ＡＥＤにより、解析開始、ショック その後、意識レベル 300、呼吸無し、脈総頸触れず、外傷無し 衣類含む私物は友人の車内（駐車場） 傷病者のバイタル：死戦期呼吸及びその後呼吸無し、心肺停止以外は見たまま、友人は救急車に同乗可能 傷病者は生体のため胸骨圧迫は実施している様だけで行う １１９番通報はトランシーバーにより仮想消防を呼び出せばそれぞれ出場する。	
開始〇分後	救急隊砂浜に到着（革靴で資器材多数：サブストレッチャー、隊長バック、吸引機、除細動器、酸素バック）	
開始〇分後	救急隊長指示で、搬送開始　それまでは救急隊は観察継続	
開始９分	車内収容完了　監視業務継続 統括の『想定終了』の合図で計測終了	

想定２

時間	項目	備考
０分	監視員（以下ＬＳ）詰所テント（以下監視台）に実施チームは配置 固定監視　監視長の「準備よし」の呼称があったら 統括の『想定はじめ』の合図で計測開始	
開始同時	小児がシュノーケルを装着し、遊泳エリア内でうつぶせ状態で浮いていた。(波打ち際岸から 5m、水深 1m付近) その小児が不自然に脱力状態なため、付近を遊泳していた遊泳者Ａが抱え上げ、意識がないことに気付く。遊泳者Ａは両腕で抱えた状態のままＬＳ監視台へ搬送する。	
開始同時	上記小児の父親は、想定開始〇分前に小児の救助に向かい溺水。波打ち際に打ち上っている。近くにいた関係者（友人）は父親が救助に向かった様を目撃しており一時見失った（〇分前）が、波打ち際で発見し助けを呼ぶ。	
付加事項	小児のバイタル：(ダミー、意識レベル 300、頻脈総頸〇回/分、呼吸無し、(統括から付加想定呼称あり）は搬送途上で啼泣(ていきゅう)、それまで意識レベル 300。バイタルをダミー胸部に表示。 父親のバイタル：(生体、意識レベル 300) 死戦期呼吸（ＬＳ接触後　〇分間、補助呼吸実施していたら　〇分以降は呼吸なし)、ＬＳ接触後〇分で激しく嘔吐。心肺停止以外は見たまま、訓練用ＡＥＤにより、解析開始、ショック　その後レベル 300、呼吸無し、脈総頸触れず、外傷無し。 関係者（友人）は救急車に同乗可能。 父親は生体のため胸骨圧迫は実施している様だけで行う。 １１９番通報はトランシーバーにより仮想消防を呼び出せばそれぞれ出場する。	
開始〇分後	救急隊砂浜に到着（革靴で資器材多数：サブストレッチャー、隊長バック、吸引機、除細動器、酸素バック）	
開始〇分	救急隊長指示で、搬送開始　それまでは救急隊は観察継続	
開始９分	車内収容完了　監視業務継続 統括の『想定終了』の合図で計測終了	

服装など

1. 実施チーム

   夏期監視業務中の服装とします。必要に応じて監視業務中の防寒対策可とします。ただしＪＬＡから配付や販売のパトロールユニフォームにあっては原則２０１７年製を使用し、記録写真が今後の広報活動に使用できるよう配意願います。

   監視長実施者識別のため、運営側が用意したビブスを一番外側に着用予定です。

2. エキストラ

   役どころに応じて別途指示します。各自防寒対策願います。

3. 審査員

   随意としますが、審査員の腕章を着用とします。各自防寒対策願います。

4. 記録（静止画担当・動画担当）

   随意とします。各自防寒対策願います。

注意事項

1. 実施チームは、実施時間２０分前には、係員から指定された次番者テントに集合し、審査開始まで離れないでください。
2. 想定終了後は、実施チームは速やかに使用資器材を元の位置に戻し、次番チームの進行の妨げにならないよう配意してください。
3. 前番の実施チームの審査はモラルの範囲で見ないものとします。
4. 審査実施終了後チーム及び見学者は審査実施を見学し、見取りトレーニングとしての参加を推奨しますが、審査未実施チームへの想定内容など情報漏えいは禁止とします。
5. 審査中に危険が伴うと審査員によって判断された場合は、想定終了前であっても中止と指示する可能性があります。審査中であっても審査員の指示があった場合は、速やかに従ってください。
6. 審査結果に伴い、優秀な実施チームを平成２９年１２月９日（土）のＪＬＡ納会で表彰します。また、審査員から上がってきた検討・推奨事項は、全国の会員に公表します。来年のパトロール活動や審査会及び普段の連携トレーニングに活かしてください。
7. 審査結果について、下記期間に問合せがあった実施チーム自身の結果のみ、個別対応で回答します。自身実施チーム結果以外の情報は一切公表しません。

   審査結果問合せ先　パトロール能力向上委員長　菊地太　090-7000-5762

   問合せ受付期間　平成３０年１月１５日(月)～平成３０年１月２２日(月)

   全日 19 時から 21 時までの間

8. 想定及びＪＬＡ側が準備する資器材が、急遽変更される場合があることをご理解ください。

実行委員会配置

実行委員長　統括　進行
菊地　太　　　　パトロール能力向上委員長

次番者テント担当（◎はリーダー、○はサブリーダー）
1. ◎小林　俊樹　　ライフセービングシステム開発委員長
2. ○菅沼　寛也　　ＮＰＯ法人　下田ライフセービングクラブ
3. 村田　恭隆　　大竹サーフライフセービングクラブ
4. 古金　源太　　KITAJIMAQUATICS

実施チームテント担当　資器材定位置確認担当（◎はリーダー、○はサブリーダー）
1. ◎田原　幸佑　　ライフセービングシステム開発委員
2. ○中川　健　　パトロール能力向上委員
3. 内田　直人　　防災対策室長
4. 菅沼　寛也　　ＮＰＯ法人　下田ライフセービングクラブ
5. 村田　恭隆　　大竹サーフライフセービングクラブ
6. 古金　源太　　KITAJIMAQUATICS

審査票集計担当（◎はリーダー、○はサブリーダー）
1. ◎菊地　太　　パトロール能力向上委員長
2. ○中川　健　　パトロール能力向上委員
3. 小林　俊樹　　ライフセービングシステム開発委員長
4. 田原　幸佑　　ライフセービングシステム開発委員

テント等会場設営撤収担当（◎はリーダー、○はサブリーダー）
1. ◎菊地　太　　パトロール能力向上委員長
2. ○中川　健　　パトロール能力向上委員
3. 内田　直人　　防災対策室長
4. 菅沼　寛也　　ＮＰＯ法人　下田ライフセービングクラブ
5. 村田　恭隆　　大竹サーフライフセービングクラブ
6. 古金　源太　　KITAJIMAQUATICS
7. 須田　邦彦　　NPO 法人 鹿嶋ライフガードチーム
8. 細川　大介　　銚子ライフセービングクラブ
9. 比嘉　貴博　　銚子ライフセービングクラブ
10. 大熊　明日香　　銚子ライフセービングクラブ
11. 瀬下　雄司　　銚子ライフセービングクラブ
12. 山本　めばえ　　銚子ライフセービングクラブ
13. 宮田　沙依　　銚子ライフセービングクラブ
14. 木下　絵美　　銚子ライフセービングクラブ
15. 板垣　俊輔　　NPO 法人 九十九里ライフセービングクラブ
16. 浅野　響　　国士舘ライフセービングクラブ
17. 並木　沢　　辻堂ライフセービングクラブ
18. 岡　勇毅　　辻堂ライフセービングクラブ
19. 藤本　航軌　　九州産業大学ライフセービングクラブ
20. 北　竜之介　　九州産業大学ライフセービングクラブ
21. 紙屋　太郎　　九州産業大学ライフセービングクラブ
22. 相川　広輝　　九州産業大学ライフセービングクラブ
23. 田原　輝人　　九州産業大学ライフセービングクラブ
24. 高松　孝一　　九州産業大学ライフセービングクラブ
25. 髙野　一唯　　九州産業大学ライフセービングクラブ

記録担当
1. 記録用動画撮影　大森　脩登　　ＮＰＯ法人　九十九里ライフセービングクラブ
   和歌山片男波・神奈川葉山の動画担当は現地エキストラから選出依頼
2. 記録用静止画　合田　光伸

弁当振り分け担当（◎はリーダー、○はサブリーダー）
1. ◎小林　俊樹　　ライフセービングシステム開発委員長
2. ○田原　幸佑　　ライフセービングシステム開発委員
3. 中川　健　　パトロール能力向上委員
4. 内田　直人　　防災対策室長

※　上記に係員の係員を配置しましたが、審査員、エキストラ、ＪＬＡ事務局の皆さんのご支援が必要ですので、お手すきの際は、各セクションご協力のほど宜しくお願い致します。

エキストラ

1. 協力公的救助機関

平成２９年１１月１１日（土）　福岡県糟屋郡新宮町下府　新宮海水浴場
粕屋北部消防本部　本署救急小隊長　救急隊３名（新宮救急警防小隊）様

平成２９年１２月　２日（土）　和歌山県和歌山市　片男波海水浴場
和歌山市消防局　救急隊３名　様

平成２９年１２月　３日（日）　神奈川県葉山町　大浜海岸
葉山町消防本部　救急隊３名　様

2. 協力医療機関

平成２９年１１月１１日（土）　福岡県糟屋郡新宮町下府　新宮海水浴場
社会医療法人財団池友会　福岡和白病院　様　救急車１台　メインストレッチャー含む

平成２９年１２月　２日（土）　和歌山県和歌山市　片男波海水浴場
和歌山市消防局　様　救急車１台　メインストレッチャー含む

平成２９年１２月　３日（日）　神奈川県葉山町　大浜海岸
国士舘大学防災・救急救助総合研究所　様　救急車１台　メインストレッチャー含む

3. エキストラ（◎はリーダー、○はサブリーダー）

◎中川　健	パトロール能力向上委員
○菅沼　寛也	ＮＰＯ法人　下田ライフセービングクラブ
村田　恭隆	大竹サーフライフセービングクラブ
古金　源太	KITAJIMAQUATICS
須田　邦彦	NPO 法人 鹿嶋ライフガードチーム
細川　大介	銚子ライフセービングクラブ
比嘉　貴博	銚子ライフセービングクラブ
大熊　明日香	銚子ライフセービングクラブ
瀬下　雄司	銚子ライフセービングクラブ
山本　めばえ	銚子ライフセービングクラブ
宮田　沙依	銚子ライフセービングクラブ
木下　絵美	銚子ライフセービングクラブ
板垣　俊輔	NPO 法人 九十九里ライフセービングクラブ
浅野　響	国士舘ライフセービングクラブ
並木　沢	辻堂ライフセービングクラブ
岡　勇毅	辻堂ライフセービングクラブ
藤本　航軌	九州産業大学ライフセービングクラブ
北　竜之介	九州産業大学ライフセービングクラブ
紙屋　太郎	九州産業大学ライフセービングクラブ
相川　広輝	九州産業大学ライフセービングクラブ
田原　輝人	九州産業大学ライフセービングクラブ
高松　孝一	九州産業大学ライフセービングクラブ
髙野　一唯	九州産業大学ライフセービングクラブ

4. AED リモコン操作　トランシーバーによる仮想消防　ダミー容態変化呼称

菊地　太　　パトロール能力向上委員長

審査員構成

１．平成２９年１１月１１日（土）福岡県新宮海岸		
長	新宮ライフセービングクラブ	大北　奈々恵
長	ＮＰＯ法人大分ライフセービングクラブ	小野　香苗
員	ＮＰＯ法人宮崎ライフセービングクラブ	濵田　博孝
員	九州産業大学ライフセービングクラブ	鈴木　裕介
長	粕屋北部消防本部　本署救急小隊長	井上　茂樹
員	福岡和白病院　医師	調整中
員	福岡県警察粕屋警察署地域第二課　課長	石田　利秀
Ｍ	メディカルダイレクター	田中　秀治
員	指導委員会委員　ＮＰＯ法人宮崎ライフセービングクラブ	藤田　和人
審	溺水事故防止プロジェクト本部長	石川　仁憲
計	溺水事故防止プロジェクト副本部長	菊地　太
２．平成２９年１２月２日（土）和歌山県片男波海岸		
長	ＮＰＯ法人大阪ライフセービングクラブ	吹田　光弘
員	ＮＰＯ法人京都ライフセービング	山本　良徳
員	岡山ライフセービングクラブ	藤井　正弘
員	徳島ライフセービングクラブ	源　　純夏
長	若狭和田ライフセービングクラブ	須藤　竜乃介
員	愛知ライフセービングクラブ	水川　雅司
長	ＮＰＯ法人神戸ライフセービングクラブ	山根　嘉樹
Ｍ	岸和田徳洲会病院　ＮＰＯ法人大阪ライフセービングクラブ	鍛治　有登
員	堺市消防局救急救命士　ＮＰＯ法人大阪ライフセービングクラブ	上田　聡
員	指導委員会委員　ＮＰＯ法人神戸ライフセービングクラブ	古中　洋平
審	溺水事故防止プロジェクト本部長	石川　仁憲
計	溺水事故防止プロジェクト副本部長	菊地　太
３．平成２９年１２月３日（日）神奈川県葉山町		
長	ＮＰＯ法人湯河原ライフセービングクラブ	青木　将展
員	熱川ライフセービングクラブ	間野村　聖
員	葉山ライフセービングクラブ	河内　莉香子
員	館山サーフライフセービングクラブ	佐藤　和伯
長	大洗サーフライフセービングクラブ	住吉　弘光
員	ＮＰＯ法人下田ライフセービングクラブ	來島　慎太郎
員	大竹サーフライフセービングクラブ	田山　俊介
長	ＮＰＯ法人西浜サーフライフセービングクラブ	河西　亮佑
員	ＮＰＯ法人九十九里ライフセービングクラブ	江川　陽介
長	スーパーバイザー	小峯　力
員	スーパーバイザー	豊田　勝義
員	スーパーバイザー	中見　隆男
員	スーパーバイザー	飯沼　誠司
Ｍ	メディカルダイレクター	田中　秀治
Ｍ	メディカルダイレクター	中川　儀英
長	ＬＳスポーツ推進本部長	宮部　周作
員	ＪＬＡＡＣＡＤＥＭＹ副本部長	佐藤　洋二郎
審	溺水事故防止プロジェクト本部長	石川　仁憲
計	溺水事故防止プロジェクト副本部長	菊地　太

※　上記、全日程の審査員は、変更ある可能性があります。

5.　審査票担当

各審査員の氏名前に記載されている記号は以下の通りとします。

長　監視長審査担当
員　監視員審査担当
Ｍ　救護手技審査担当
審　審査長全体審査担当
計　時間審査担当

※　審査票は、第２回ＪＬＡシミュレーション審査会審査票等（平成２９年１０月９日通知）の通りとします。

2017 年 11 月 11 日（土）福岡県新宮会場　当日ﾀｲﾑﾃｰﾌﾞﾙ

時間	項目	備考
10：00	係員集合　会場設営開始	
11：00	会場設営完了　エキストラ説明会開始	
11：30	エキストラ説明完了　審査員説明開始	
12：00	審査員説明修了　実施チーム受付開始	
12：45	実施順序抽選会（全実施チーム代表者本部テント前集合）	
13：00	粕屋北部消防本部　救急隊員 3 名様、審査員 1 名様 社会医療法人財団　池友会　福岡和白病院様のご紹介 事務連絡及び補足説明 審査長　初めの挨拶	
13：30	第 1 回目実施 九州産業大学ライフセービングクラブ A	
13：45	第 2 回目実施 福岡大学ライフセービングクラブ	
14：00	第 3 回目実施 九州産業大学ライフセービングクラブ B	
14：15	第 4 回目実施 新宮ライフセービングクラブ	
14：30	第 5 回目実施 広島国際大学ライフセービング部	
15：00	ドローンレスキュー　デモンストレーション	
15：30	審査長　講評　事務連絡	
16：00	■実施チーム　撤収は審査員以外協力 撤収開始　車内積載開始　その後　解散	
16：15	■審査員は本部に集合 審査票調整後回収　審査員から意見収取 事務連絡　全係員解散	

※すべての事項は進行によって早まる可能性があります。

2017 年 12 月 2 日（土）和歌山県片男波会場　当日ﾀｲﾑﾃｰﾌﾞﾙ

時間	項目	備考
10：00	係員集合　会場設営開始	
11：00	会場設営完了　エキストラ説明会開始	
11：30	エキストラ説明完了　審査員説明開始	
12：00	審査員説明修了　実施チーム受付開始	
12：45	実施順序抽選会（全実施チーム代表者本部テント前集合）	
13：00	和歌山市消防局　救急隊員 3 名様のご紹介 事務連絡及び補足説明 審査長　初めの挨拶	
13：30	第 1 回目実施 大阪ライフセービングクラブ A	
13：45	第 2 回目実施 大阪ライフセービングクラブ B	
14：00	第 3 回目実施 神戸ライフセービングクラブ A	
14：15	第 4 回目実施 神戸ライフセービングクラブ B	
14：30	第 5 回目実施 大阪ライフセービングクラブ C	
14：45	第 6 回目実施 横浜海の公園ライフセービングクラブ	
15：00	第 7 回目実施 大阪体育大学ライフセービング部	
15：30	審査長　講評　事務連絡	
15：45	■実施チーム　撤収は審査員以外協力 撤収開始　車内積載開始　その後　解散	
16：00	■審査員は本部に集合 審査票調整後回収　審査員から意見収取 事務連絡　全係員解散	

※すべての事項は進行によって早まる可能性があります。

2017 年 12 月 3 日(日)神奈川県葉山会場　当日ﾀｲﾑﾃｰﾌﾞﾙ

時間	項目	備考
07：00	係員集合　会場設営開始	
08：00	会場設営完了　エキストラ説明会開始	
08：30	エキストラ説明完了　審査員説明開始	
08：50	審査員説明修了　実施チーム受付開始	
09：20	実施順序抽選会（全実施チーム代表者本部テント前集合）	
09：30	葉山消防本部３名様 国士舘大学防災・救急救助総合研究所様のご紹介 事務連絡及び補足説明 理事長　初めの挨拶	
10：00	第１回目実施 湯河原ライフセービングクラブ	
10：15	第２回目実施 下田ライフセービングクラブ	
10：30	第３回目実施 湘南ひらつかライフセービングクラブ	
10：45	第４回目実施 九十九里ライフセービングクラブ	
11：00	第５回目実施 館山サーフクラブ	
11：15	第６回目実施 辻堂ライフセービングクラブ	
11：30	第７回目実施 波崎サーフライフセービングクラブ	
11：45	第８回目実施 熱川ライフセービングクラブ	
12：00	第９回目実施 中央大学ライフセービング部	
12：15	審査員　昼食	
13：15	第１０回目実施 葉山ライフセービングクラブ	
13：30	第１１回目実施 鎌倉ライフガード	
13：45	第１２回目実施 大竹サーフライフセービングクラブ	
14：00	第１３回目実施 銚子ライフセービングクラブ	
14：15	第１４回目実施 横浜海の公園ライフセービングクラブ	
14：30	第１５回目実施 西浜サーフライフセービングクラブ	
14：45	第１６回目実施 逗子サーフライフセービングクラブ	
15：15	審査長　講評　事務連絡	
15：35	■実施チーム　撤収は審査員以外協力 本部テント２張以外は撤収開始　車内積載開始　その後　解散	
16：00	■審査員は本部テント内に集合 審査票調整後回収　審査員から意見収取 事務連絡　全係員解散	

※すべての事項は進行によって早まる可能性があります。

※午前中の回までエキストラとして葉山町消防本部　救急隊３名様が協力して下さります。

※午後のエキストラは午前中と想定条件に変化のない形で実施します。

問合せ先

パトロール能力向上委員長　菊地太

特定非営利活動法人日本ライフセービング協会

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-1-18 トップスビル 1F　担当　中山

ＴＥＬ：０３-３４５９-１４４５　ＦＡＸ：０３-３４５９-１４４６

http://www.jla.gr.jp　info@jla.gr.jp

（問合せ時間　９：００～１８：００）

福岡県糟屋郡新宮町下府　新宮海水浴場　会場図

新宮海水浴場　審査会　実施場所

当日上空に飛来機

当日実機車両

和歌山県和歌山市　片男波海水浴場　会場図

片男波海水浴場　審査会　実施場所

神奈川県葉山町　大浜海岸　会場図

大浜海岸　審査会　実施場所

死戦期呼吸(しせんきこきゅう)／あえぎ呼吸について

死戦期呼吸(agonal respiration)又は、あえぎ呼吸(gasping)とも言われます。
（吸気時に呼吸補助筋の協働運動のため頭部を後ろへ反らす動きを認める。）
「あえぎ呼吸」を正常な呼吸と誤認して、CPR をせずまた AED も使用せず、非常に悲しい事態をまねいたケースが過去にはありました。
正常な呼吸とあえぎ呼吸を区別し、あえぎ呼吸の場合は、すぐに息を２回吹き込んで
ＣＰＲをし、ＡＥＤを使うことが大切です。

■特徴
・あえぎ呼吸は、人の誕生の時と臨終の時にみられる。
・お腹の中の赤ちゃんがあえぎ呼吸をして羊水に浮かんでいる異物を飲み込む場合がある。
・臨終に際し、心停止後１分を過ぎると、あえぎ呼吸を呈する場合がある。
・溺水した体を調べると、水を飲み込んだ体とそうでない体に二分される。
　前者はあえぎ呼吸で水を飲み込んだもの

■正常な呼吸とあえぎ呼吸の見分け方
(１)呼吸音の違い
　あえぎ呼吸の場合、子供が激しく泣いたあとにみられるしゃっくり
　あげるような不規則な音です。喘鳴音を伴います。
　（AHA のヘルスケアプロバイダの DVD をよく聞くと、喘ぎ呼吸の声が入っています。
　しかしこの声は、小さく短いあえぐような「あぅ〜」という感じの音です。）

(２)周期(cycle)の違い
　正常な呼吸数は
　成人（８才〜 ）　３〜５秒に１回
　小児（１〜８才）　２〜３秒に１回
　乳児（０〜１才）　１〜２秒に１回
　あえぎ呼吸では、もっと少なく、１分間に数回です。
　(徐呼吸となり、長い呼吸停止をともなう）

(３)空気をすう時間と、はく時間の比率(ratio)の違い
　□□□□■■■■■■■■□□□□■■■■■■■■
　　すう　　　はく
　(吸気)　　(呼気)
　inspiration expiration
　正常な呼吸では、すう時間とはく時間の比率は約 1:2 です。(I/E 比=2)
　あえぎ呼吸では、この I/E 比は２より大きくなくなります。(例えば 1:3)

■市民に対する啓蒙
米国でも、あえぎ呼吸を正常な呼吸だと誤認して、ＣＰＲが実施されない状況がありました。しかし、救急通報を受けた側が、
（１）患者は目がさめていて、意識がありますか？
（２）患者の呼吸は正常ですか？　呼吸を数えて、その音について描写して下さい、
（３）患者は動いていますか？
の３項目の質問を追加したところ、通報時の心停止見逃しが約３分の２に減ったとのことです。（ＡＨＡ２００４速報）

第２回 JLA シミュレーション審査会
安全対策

１． 災害等対策

次のような対策を行い、災害等から審査会実施者と役員、観客の安全を確保する。

①地震

津波情報を確認し「大津波警報」「津波警報」「津波注意報」が発令された場合は、審査会を中断し、放送及び係りの誘導により関係者を丘側に避難させる。避難経路、避難場所は事前に各チームに通達。

②雷

雷雲が接近した場合には、周辺の状況に充分注意し、雷の発生が疑われる場合は審査会を中断し、放送で落雷に対する注意を呼びかける。雷が発生した場合にはただちに全ての審査会を中止し、審査会実施者、観客、役員等へ避難を呼びかける。避難場所としては、「自動車、バス、列車、鉄筋コンクリート建築の内部」「本格的な木造建築の内部（普通の落雷に対して）」が望ましい。テントやトタン屋根の仮小屋の中は、屋外と同様に雷の被害を受ける危険がある。

③溺水

審査会実施者及び周辺海域の遊泳者で溺者を発見または通報を受けた場合は、最寄りの関係者は溺者の救助に努めると共に、審査会参加の医師により溺者に対し必要な応急処置を施す。応急手当ではすまない場合は救急車により医療機関へ搬送する。救急車の要請は医師または実行委員長の判断によるものとする。

④傷病

審査会参加の医師により傷病者に対し必要な応急処置を施す。応急手当ではすまない場合は救急車により医療機関へ搬送する。救急車の要請は医師または実行委員長の判断によるものとする。

２． 中断・中止判断基準

下記の基準を目安として審査会の進行に危険が伴うと判断された場合、または実行委員会で協議し、必要に応じて審査会の中断または中止を判断する。その後、実行委員長は協議の結果を審査会役員に報告する。

●気象庁より、いずれかの注意報または警報が発令されたとき

●その他不測の事態が生じたとき

●審査会	波高	３m 以上
	風速	１５m/s 以上
	視界	５００m 以下
	警報・注意報	強風、波浪、雷、津波　等

３．保険の加入

審査会実施者及び役員を対象に下記の傷害保険、役員を対象に賠償責任保険に加入します。

傷害保険	死　亡・後遺障害／3.000 万円
	入　院／日額 5.000 円　　通　院／日額 3.000 円
賠償責任保険	対人 1 名につき 1 億円、1 事故につき 2 億円、対物 1 事故につき 500 万円

以　上